

2021年度（第46回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	京 都 外 国 語 大 学	研究所名等	京 都 外 国 語 大 学 ラテンアメリカ研究所
研 究 課 題	中米の古代パンアメリカンハイウェイがつなぐ南北交流の研究 —交流の道・足・物を考古学から読み解き地域社会へ還元する—	研究分野	文 学
キ ー ワ ー ド	①中間領域、②先住民文化、③南北交流、④コミュニティミュージアム、⑤内発的開発、⑥岩刻画、⑦地域活性化		

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
南 博 史	国 際 貢 献 学 部 京 都 外 国 語 大 学 ラテンアメリカ研究所	教 授 員 教 研 員	研究代表者、研究統括、考古学調査・分析、フィールドミュージアム構想の提案・実施

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
市 川 彰	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所 名古屋大学人類文化遺産アクト学 研究センター	客員研究員 研究員	考古学資料分析(とくにメソアメリカ太平洋側土器との比較研究)、生業研究(製塩など)
嘉 幡 茂	国際言語平和研究所	嘱託研究員	研究副代表者、考古学調査・資料分析(小原豊雲コレクション土器)、金属製品の比較研究
柴 田 潮 音	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所 エルサルバドル文化省 文化自然遺産局考古課	客員研究員 顧問	考古学調査・資料分析(とくに石彫、岩刻画などの比較研究)
村 野 正 景	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所 京都文化博物館学芸課	客員研究員 学芸員	考古学資料分析(とくにニカラガ中央部土器との比較研究)、土器の移動、製作技法の研究 博物館活動の実施
ミリアム メンデス	La Dirección de Arqueología, Ministerio de Cultula	Apoyo Técnico	タマニケ地方サンシドロ地区考古学調査 コミュニティ・ミュージアム活動の実施
フランシスコ コラレス	Arqueología en el Museo Nacional de Costa Rica	Antropólogo	オサ半島地方カンタレロ遺跡考古学調査 ガジャルド村コミュニティ・ミュージアム活動の実施
フリエタ・マルガリータ＝ロペス・フアレス	京都外国語大学ラテンアメリカ研究所	客員研究員	考古学資料分析(とくに土器の科学分析) 国内資料調査

中米の古代パンアメリカンハイウェイがつなぐ南北交流の研究 — 交流の道・足・物を考古学から読み解き地域社会へ還元する —

1. 研究の目的

(1) 中間地域とされてきた中米地域の太平洋側が、「古代パンアメリカンハイウェイ」（古代メソアメリカ文明と古代アンデス文明を結ぶ道）であったという仮説を「道→何のために＝地域事情」、「足→どのように＝方法」、「物→何を＝運ばれるもの」の考古学研究から実証する。

①「道→何のために＝目的」に向けた調査

エルサルバドルタマニケ地方サンイシドロ地区、およびチャルチュアパ地方カサブランカ遺跡、コスタリカのオサ半島カンタレロ遺跡において、現地研究機関の考古学調査に協働し、当該遺跡の各地域における歴史的文化的位置づけを明らかにし、土器の移動を中心に研究を試みる。

②「足→どのように＝方法」に向けた調査

ヒスイと金製品は両文明の威信財として運ばれており、コスタリカ国立博物館、ヒスイ博物館と協働してその再現に取り組む。とくに砂金の産出地にあるカンタレロ遺跡の考古学調査によって関連資料の収集を目指す。

③「物→何を＝運ばれるもの」に向けた調査

土器、土偶、金、ヒスイ、石彫を対象とする遺物研究。とくに小原コレクションのコスタリカおよびエクアドルの土器と土偶を用いて、他地域との比較研究を行う。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴う海外調査の実施が困難な状況にあっても、寄贈を受けた「小原豊雲コレクション」のコスタリカ、エクアドルの土器・土偶の実証的研究を学内にて継続的に実施できる。これによって現地資料との比較研究が可能となる。

(2) コミュニティ住民を主体とする文化資産を活用した地域活性化活動（コミュニティ・ミュージアム活動と定義）に参画し、研究の成果を還元した地域の持続可能な開発に貢献するワールドミュージアムマネジメント活動を実施する。

①ガジャルド村住民への考古学調査成果の報告およびコミュニティミュージアムに向けて住民の意識調査

②タマニケ地方サンイシドロのコミュニティミュージアム展示施設での博物館活動を行い、住民との意見交換会の実施。

2. 研究の計画

(1) 国内調査（国際文化資料館）

①コスタリカ、エクアドル遺物調査：研究代表者、研究分担者（嘉幡茂）

活動：昨年度リストアップした小原コレクションの精査

②小原コレクション写真撮影

活動：精密写真の撮影：研究代表者、研究分担者（嘉幡）、研究協力者

(2) 海外調査Ⅰ期【2021年8－9月】

①エルサルバドル：2週間程度／代表者、研究分担者（ミリアム・メンデス）、研究協力者

調査地：タマニケ地方サンイシドロ地区

活動：2019年2月に実施した地形図をもとに、遺跡情報を加えた遺跡分布図を作成。地区住民の協力の元、準備をはじめた遺跡ガイダンスルームの整備をすすめる。

②エルサルバドル：1週間程度／研究分担者（柴田潮音、村野正景、市川彰）

調査地：チャルチュアパ地区カサブランカ遺跡公園

活動：出土遺物の再検討、遺物カード、データベースの作成、遺跡公園博物館を利用したコミュニティとの交流活動

③コスタリカ：1週間／代表者、研究分担者（フランシスコ・コラレス、嘉幡）、研究協力者

調査地：オサ半島カンタレロ遺跡

活動：遺跡の精密測量、表面踏査を行い次期の試掘調査に向けた準備を行う。ガジャルド村にて報告会およびワークショップ

(3) 海外調査Ⅱ期【2022年2－3月】

①エルサルバドル：1週間程度／代表者、研究分担者（柴田、村野、市川）、研究協力者

調査地：チャルチュアパ地区カサブランカ遺跡公園

活動：出土遺物の再検討、遺物カード、データベースの作成、コミュニティ交流活動

②ニカラグア：1週間程度／代表者、研究分担者（嘉幡）、研究協力者

調査地：ニカラグア国立博物館

活動：ニカラグア国立博物館から協力願いのあった収蔵品の登録作業に協働し、必要とする資料の遺物カード、データベースを作成

③コスタリカ：2週間程度／代表者、研究分担者（コラレス）、研究協力者

調査地：オサ半島カンタレロ遺跡

活動：試掘を行う。土器編年資料などの回収。ガジャルド村にて報告会・ワークショップ

3. 研究の成果

(1) 国内調査

①小原コレクションの記録化作業

コスタリカ、エクアドルの考古資料の確認作業に引き続き、隣接地域の考古学資料の確認作業を行った。約500点を対象に順次資料の記録作業を開始した。

②国際文化資料館デジタルミュージアム公開に向けての作業

新型コロナウイルス禍の中、国際文化資料館では小原コレクション遺物の調査を踏まえて、学術的な分析・評価を行った上で（研究協力者：南山大学人類学研究所非常勤研究員佐藤吉文）3D撮影を行い（嘉幡）、デジタルミュージアムとして公開を開始した。

(2) 海外調査

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた海外調査は実施できなかった。海外研究協力者も自国の行動制限により調査を実施できなかった。

カリブ海側ウルワにおいて、歴史地理学からフィールドワークを実施している横浜国立大学池口明子氏より、岩刻画調査の成果について放送大学（6月放送予定）での講義に使用したいという要望があり、研究協力者の深谷岬（京都外国語大学博士課程後期）が出演した。

(3) フィールドミュージアム研究

①ニカラグアのカリブ海側およびエルサルバドル太平洋側での考古学と博物館を仲介者とした実践的地域研究については、海外調査が実施できず、現地コミュニティとの活動は停止している状況である。一方、コスタリカのオサ半島ガジャルド村では、研究分担者フランシスコ・コラレス（コスタリカ国立博物館）が、現地とのコミュニケーションを継続し、早期の調査再開に向け準備を進めている。

②ニカラグアのキラグア山西麓ティエラブランカを中心としたフィールドミュージアム活動については、考古学調査を含め現地調査再開に向けて、マティグアス市内の拠点を中心として、ニカラグア国立自治大学出身の考古学者の協力のもと現地情報の収集につとめている。

4. 研究の反省・考察

(1) 小原コレクションの研究

京都外国語大学国際文化資料館収蔵資料調査は、新型コロナウイルス感染拡大により作業が制限されたため大幅に遅れている。一方、国際文化資料館VRミュージアムの公開が始まっており（<https://www.kufs.ac.jp/umc/index.html>）、これに協働しながら2022年度以降も作業を継続する。

(2) 岩刻画の研究

今年度現地調査は実施できなかったが、エルサルバドルの岩刻画を集成した資料集を個人から預かることができたのでこれらに掲載されている事例の分析を開始した。

マタガルパ県マティグアス郡ラスベガス遺跡出土遺物の研究から、カリブ海側との交流の可能性について指摘してきた。一方、エルサルバドル側の資料の提供を受けたことで、太平洋側、とくにエルサルバドル方面など、カリブ海側以外と内陸部の交流の解明を目指したい。

(3) フィールドミュージアム研究

ニカラグアカリブ海自治区大学、エルサルバドル文化省文化自然遺産局、コスタリカ国立博物館それぞれの研究分担者・協力者を通して、現地の様子などを確認しているが、現地もまた行動が制限されているため十分なやりとりはできていない。Withコロナを考えオンラインでの調査、交流方法も考えたが、エルサルバドル太平洋側やニカラグアのカリブ海側では現地インフラの問題もあって実現できていない。コスタリカについては研究分担

者が準備を進めている。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

なし

(2) 口頭発表

南博史「中米における博物館活動の現状と課題～エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカを中心に～」、文化遺産国際協力コンソーシアム第16回中南米分科会、2021年7月29日、東京国立文化財研究所

(3) 出版物

南博史「考古学・歴史学の立場からの活かし方」松本茂文編著『ヘリテージマネジメント』学芸出版社、2022年、25 - 31頁。